

## 2 博覧会計画及び環境保全上の課題

### (1) 博覧会計画

#### ア 海上地区

21 - 01 海上の森は、高齢者の方たちに自然のすばらしさ、生命力を伝えることができる博覧会にしてください。

#### 《 見 解 》

本博覧会のテーマ「自然の叡智」のもと「宇宙、生命と情報」や「人生の“わざ”と智慧」等のサブテーマの展開に際し、ご意見の趣旨を参考にして、展示・催事について具体的な検討を進めてまいります。

21 - 02 海上南地区は、未開発の土地であり動植物も豊かであることから、万博のために開発すべきではない。いまだに同地区を開発する理由が明かでない。「自然と人との関わり方を考える」との協会や県のいう理由づけがあいまいではっきりしない。金城埠頭での万博開催を提案するグループのアイデアを取り入れるべきである。

21 - 03 今にいたって、諸々難問をかかえて、「森の万博」にこだわる必要があるのかを再度検討し直して欲しい。

#### 《 見 解 》

本博覧会の「自然の叡智」というテーマを真摯に考え、歴史的に人の生活と自然が深い関わりを有し、現在では身近な自然である雑木林として、奥深い原生自然とも、開発された都市環境とも異なる特徴を持った「海上の森」を会場地として選定しました。この考え方は、誘致の際、国際的にも高い評価を得ております。

その後、地元市民や自然保護団体を含めた幅広い合意形成を図りながら、自然環境への最大限の配慮を払いつつ現在のような会場計画を策定してまいりました。博覧会協会は、今後、展示や催事の具体的な計画を進めていく中で、「人と自然の関わり方」についてより明確に表現していきたいと考えております。

21 - 04 夏に回廊予定地の森を歩いてみたが、暑くて脱水症状になった。このような場所で回廊を歩く人が果たしているのか。急病人が出た場合、救急車両を入れる別の道路が必要になる。これでは、自然破壊がまた増加するのではないか。会期中のほとんどの期間が暑い時期に当たることを考慮しているのか。具体的にはどうするのか。

21 - 05 森の中にはスズメバチなどの人に危害を加える昆虫などもすむ。ここに多くの人が入り込むと危険である。農薬を散布するなどの対策はやめてほしい。

21 - 06 登録会場はフェンスで囲むことになると思うが、フェンスの外なら無料で海上の森を歩けるとなると、会期中ものすごい人が(無料地区の)森に入り込み、その圧力で生態系が壊れてしまう。また、それらの人たちを排除する理由もない。このことから海上地区の開催は問題が大きい。そのため海上地区からの万博の撤退を求める。(他に同趣旨1件)

21 - 07 海上の森（協賛会場としての）の活用区域がはっきりせず、一度工事が始まれば登録会場以外の地区での造成等が進むのではということが懸念されます。

《 見 解 》

登録会場外の事業主体や具体的な計画を始め、回廊についてもそのルートや延長等の詳細な計画が固まっておりませんが、博覧会開催時に博覧会協会が管理する区域においては、環境に配慮して適切な管理運営に努めてまいります。

21 - 08 海上西地区、南地区の造成と回廊は、自然への負荷が回避できる現状にあるので中止してほしい。（代替地が笹島・陶土採掘跡その他あるため）

21 - 09 海上西地区については、周辺住民への影響が精神的・物理的に多く、長期にわたることが予想されるため、西地区の登録会場は中止して欲しい。

21 - 10 海上地区は、BIE から指摘されたように国際的には評価をされていないどころか、青少年公園に入場者を多くするため、人があまり入らないような手立てを求められたお荷物扱いである。そのような今、海上の森を博覧会で会場として使う魅力はなくなった。さらに、回廊や里山地区に人を多数入れ込むことは、BIE の意向に反することにもなりかねない。海上の森に残された自然は、愛知県では有数の貴重なものであり、研究、教育以外の人の入れ込みは極力控えたい。

回廊、里山地区に人を入れ込むことを止め、海上南・西地区の会場計画を中止することが必要だ。

《 見 解 》

海上地区の会場については、本博覧会のテーマである「自然の叡智」を具現化する人と自然の交流ゾーンとして位置付けており、環境に配慮して具体的な検討を進めてまいります。

21 - 11 海上西地区に予定されている山口広久手地区からサンヒル上之山団地へ通じる道路は、万博計画にとってなぜ必要であるのか不明。この道路によりハッコウトンボやトウカイコモウセンゴケの生息、生育する湿地が破壊されるおそれがあり、アセスメントを行い計画を取り止めるべきではないか。

《 見 解 》

ご意見の趣旨を関係機関に申し伝えます。

21 - 12 森を巡る回廊が計画されているが、幅 4 m 長さ 2,000 m もの回廊を建設するには、両側ののり面や調整池を建設するための面積を含めると回廊自体の面積の 3 倍もの土地改変が必要になるとの専門家の指摘がある。大きな自然破壊となる回廊計画は撤回すべきである。

21 - 13 幅 4 m 長さ 2 km の回廊計画は大規模なものであり、自然環境に大きな負荷を加えるものであり、アセスメントを必ず実施すること。

21 - 14 回廊を利用して海上の森に入り込む人の影響について、数値化して比較検討しアセスメントを行うこと。

《 見 解 》

回廊の計画については、将来の利用計画と整合を図りつつ、ルートや構造等の具体的な詰めを行う

こととしております。また、その環境影響評価についても必要に応じ検討してまいります。

なお、回廊の設置については、来場者に環境に負荷を与えることなく森を歩いてもらうことを目的としており、その施工に当たってもできる限り環境負荷の低減が図られる手法の採用に努めてまいります。

21 - 15 吉田川流域は、海上の森の中でも最も豊かな里山と水系、動植物の生息地であると思われる。南・西地区の会場建設は吉田川流域の生態系を著しく破壊することは明らかである。

21 - 16 海上南地区を開発すれば、大雨で土砂が大量に流出し、ゲンジボタルが生息する吉田川にダメージを与える。土地改変はすべきではない。

21 - 17 万博会場として海上南・西地区が登録されることには反対です。9月の豪雨で海上地区の崩壊・土砂くずれの箇所は多く、特に南地区の吉田川沿いのあちこちで崩壊が見られます。またこのような雨が降れば、大きな災害も予想されます。工事が始まれば、これ以上の被害も考えられます。  
(他に同趣旨2件)

21 - 18 9月の東海豪雨による大災害が庄内川の下流域で発生した。建設省と愛知県は、流域全体の治水対策の根本的な見直しをここ5年間かけて行うと言っている。庄内川の支流の吉田川は、治水治山対策の観点からも開発すべきではない。

#### 《 見 解 》

海上地区の南西斜面部における土工事については、沈砂池の設置や裸地面の処理等、吉田川への土砂流出を避ける上で有効な工事中の保全措置を検討し、工事計画に適切に反映できるよう努めてまいります。

また、工事中の一時的影響のみならず、供用後においても残置斜面部からの土砂流出や造成面からの排水の流入による水質・水量変化等の回避・低減に向けて有効な保全措置を検討し、斜面緑化や河川の整備計画、排水計画等に適切に反映できるよう関係機関と対応を協議してまいります。

21 - 19 自然豊かな海上南地区でのミティゲーションサイトはどうしても理解できません。科学的な根拠を知りたい。人為的なものばかりが増えてしまう森を想像しただけでも心が痛みます。

21 - 20 海上の森3ヶ所に予定されているミティゲーション地域には、海上南・西地区のどのような自然環境がミティゲーションされるのか。ミティゲーションに関するアセスメントはどのように行われるのか。アセスメントの結果、3ヶ所にミティゲーションができないとなれば、海上南・西地区の事業計画は中止若しくは変更されるのか。

#### 《 見 解 》

ミティゲーションサイトの具体的な位置及び事業内容等について、関係機関との調整に努めてまいります。